

「聞こえない！もっと大きな声で！」

「いいでしょう」

真理：

「それじゃあ、服を脱いで裸になりなさい」

「恥ずかしがらないで、早くしなさい」

「そうよ、下も脱いで」

「パンツも脱ぐのよ」

「何してるの！脱げって言ってるでしょう！」

亜衣：

「なかなかいいカラダ、してるじゃない」

「少し、裸のまま立ってなさい」

「私達に、裸みられて、どう言う気持ち？」

「ん、恥ずかしい？」

理奈：

「ちょっと、何でちんぽ勃ってるのよ」

「変な事考えてるんじゃないでしょうね」

「え？私達女の口に見られて勃っちゃたの？」

「男の口のカラダって面白いのね」

亜衣：

「さて、そろそろお仕置きをしましょう」

「今日は、クツサイ臭いをいっぱい嗅いでもら
うわよ」

「はあ～。はあ～。はあ～」

「どう？私の口の臭い」

真理：

「私の息も。はあ～。はあ～。はあ～」

理奈：

「私も。はあ～。はあ～。はあ～」

亜衣：

「どう？臭うでしょう？」

「昨日から歯を磨いてないから、臭うはずよ」

「もっと、嗅ぎなさい」